

図書館だより

目次

| | | |
|-----------------------------------------------|---------|---|
| 最近の図書館について思うこと | ——島崎 恒藏 | 1 |
| 2012年度泉会「貴重資料購入援助費」による 購入貴重書の紹介 『源氏物語』五十四帖 | ——坂本 清恵 | 2 |
| 大学図書館 Web 版利用者アンケート結果報告（概要） | ——中曽根 緑 | 4 |
| たくさんの人生 | ——松土あゆみ | 6 |
| 「本」と「私」 | ——根本友里恵 | 6 |
| 大学図書館を使いこなそう！ | ——閲覧係 | 7 |



貴重書『源氏物語』展示風景

最近の図書館について思うこと

島崎 恒藏

大学に属している者にとって最も身近な図書館は、大学図書館であろう。一方、自宅を中心に生活者として立場を変えてみると、地域にある最寄りの図書館もまた身近な図書館といえる。地域の図書館に関しては、自治体によって運営されているものが多く（運営が民間委託されているケースもあるが）、一般的に大学図書館との間には利用目的も、利用者層も基本的に異なっている。しかし、いずれの図書館であっても、かつての図書館としての役割を大きく拡張・変貌させつつある点は、共通しているように思う。

“図書館には多数の書籍・資料が所蔵され、静寂な環境のもとでそれらに接することができ、あるいは図書貸し出しや返却を受ける”のが、これまでの図書館の期待される主要な役割であった。もちろん、この役割は現在の図書館においても極めて重要ではあるが、これのみでは利用者の多様なニーズを吸収しきれなくなったという現実があるようだ。この背景には、Web（インターネット）が普及し、通信インフラが整備され、デジタルメディアの利用の拡大などが大きな影響を及ぼしていると考えられるが、さらに活字離れなどの世相を反映した面もあるのかも知れない。

最近の地域図書館の活動は極めて多彩で特色がある。興味深い例をいくつか挙げてみると、企業研究セミナー（就活）、育児・健康など地域住民が抱える課題の解決支援、起業・経営に関する相談セミナーなど、直接的に住民の実利に結びつく企画がタイムリーに開催されている。また地域の古写真を収集し、解説文を付して整理し、アーカイブスを構築するなどの地域図書館らしい活動もある。以上のような活動は、従来の地域図書館には見られなかったものであり、活動の新しい方向性と捉えることができる。ここで重要なキーワードを挙げるとすれば、「コミュニケーション」と「連携」ということであろうか。上記の諸活動においても、主催者と参加者の連携のもとで活発なコミュニケーションがなされ、それがよく消化されることが十分な効果を上げるためには必要である。

大学図書館においてもラーニングコモンズなどが設置されるようになり、教育効果を一層向上させる方策が重要視されるようになった。また協同学修の重要性なども叫ばれており、大学図書館においてもコミュニケーションと連携が欠かせない重要なポイントである。本学の図書館は、設立からすでに半世紀を超え、学園の発展と歩調を合わせて新しい図書館として脱皮しなければならない時期にある。ハードとしての質の高い図書館の実現だけではなく、ソフト面からは大学教育に携わる教職員と学生の意識がしっかりと噛み合うことが極めて重要であることを忘れてはならない。

（図書館長・被服学科教授）

2012年度泉会「貴重資料購入援助費」による購入貴重書の紹介

『源氏物語』 五十四帖 宗周・理成筆 桃山期写 外題・五井善齋筆
宝永三年朝倉茂入景順極書付 春慶漆塗箱入
坂本 清恵

『源氏物語』は、Arthur Waley, Edward G. Seidensticker, Royall Tyler などの英訳があり、日本の古典文学作品のうち World Literature と扱われている。また、World Literature の中にあって女性が創作した古典作品として稀有な存在でもある。その五十四帖揃いの写本が、この度日本女子大学蔵となったことはまことによろこばしい。ご購入くださった泉会に感謝いたすばかりである。

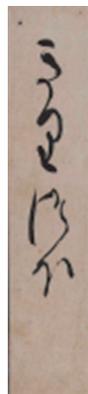
『源氏物語』に限らず、日本の古典文学作品の多くは著者の自筆本が残されていない。書写されて伝えられてきたものを校訂し、より原典に近い形に復元して読むことになる。そのような状況下で、著者自筆にほぼ違わない本文を読める作品に、紀貫之の『土佐日記』が挙げられる。自筆本は残っていないものの、鎌倉時代には三十三間堂で有名な蓮華王院に蔵されており、藤原定家は文暦二(1235)年五月十三日にこれを借り出して書写を行っており、これが尊経閣文庫蔵本である。定家は、このときのことを、貫之執筆後301年経っても「紙は朽ちず其の字は損なはず、また鮮明なり」と書き残しており、感激の様子が伝わる。さらに、自筆本を目にしたことによって自著『僻案抄』では、「物かきうつすとてあらぬ僻文字どもかきける物のことやうの手なる草子を、貫之が自筆といひて、人すかしける物を、もてなしていひいでたるいたづら事也。その本貫之が手にあらず」のように筆跡鑑定も綴るようになる。

しかし、この定家書写の本文が貫之自筆本に最も近いわけではない。書写の態度には様々なレベルがあろうが、大きく分ければ、字母まで忠実に写す現在ならばコピーをとるような場合と、本文を解釈しながら写して行く場合とがある。定家は後者の立場で、本文をわかりやすく校訂しながら写している。ただし、『土佐日記』書写に際しては、最後の部分のみ前者の写し方で、貫之自筆を臨模している。定家息の為家も貫之自筆本を嘉禎二(1236)年に書写しているが、これは前者の写し方をしているようである。為家自筆本は1984年に伝存がわかり、現在大阪青山歴史文学博物館蔵となっているが、為家本の忠実な書写である青谿書屋本(現在東海大学附属図書館桃園文庫蔵)と定家の臨模部分を比べると、仮名字母までそっくり同じである。為家本が貫之自筆本の完全な複写ともいえる本文を持っていると予想されるのである。現在は、青谿書屋本で貫之自筆本と変わらぬ本文を読んでいると言ってよからう。

さて『源氏物語』の本文はどうか。紫式部の書いた原典をどの程度反映した本を我々は読んでいるのだろうか。『源氏物語』の場合には、仮名字母まで忠実に写した写本は今のところ見つからない。また、紫式部執筆当時の仮名遣いを保持したと考えられる伝本もない。『源氏物語』の伝本系統には、青表紙本系統、河内本系統、別本系統に大きく分類されるが、前二系列の本文はいわゆる定家仮名遣いで書かれている。これらは、鎌倉時代に整えられた本文として読まなければならないことになろう。

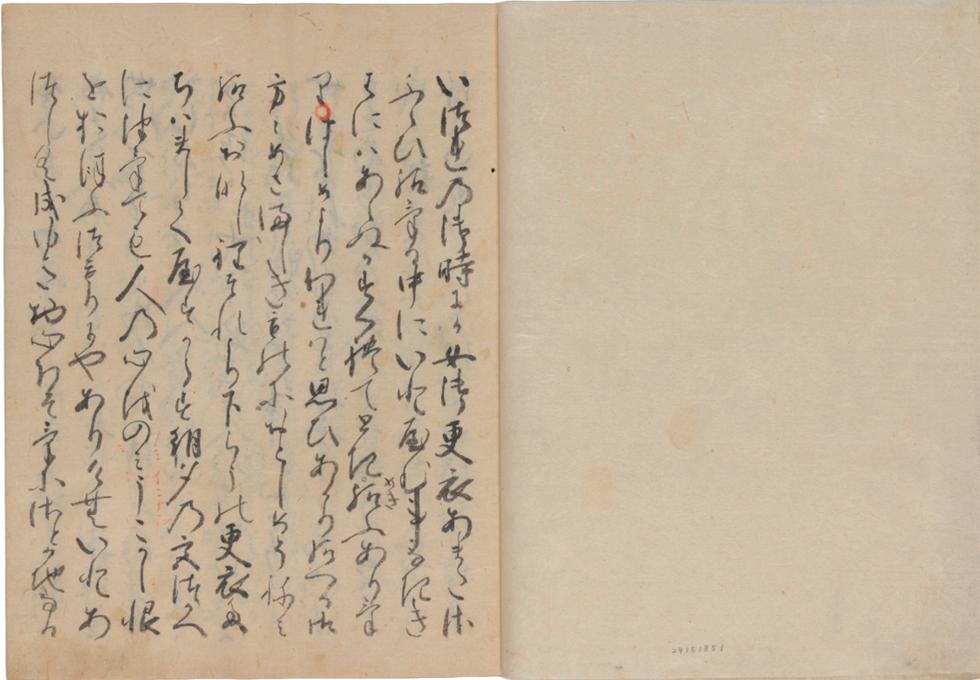
女子大蔵となった『源氏物語』には、古筆鑑定家、二代目朝倉茂入(景順)が中谷宗純に宛てた宝永三(1706)年十二月五日付けの、折紙二枚を綴じた極書が付されている。これに拠れば、本文書写は堺住連歌師宗周と宗周弟堺住連歌師理成によるという。また、各帖の題箋には、本文とは書風の異なる筆で巻名が著されている。極書には「惣外題者 尊朝親王御門弟 五井善齋筆」とある。尊朝法親王(1552~1597)は青蓮院門跡で、書にすぐれ、御家流の一派である尊朝流を創始している。五井善齋は、尊朝法親王に学んだ五井禅休であるか。題箋は極書どおりの御家流である。

宗周・理成は、泉州堺に住み、牡丹花肖柏(1443~1527)や父宗訊(1483~?)に学んだ。肖柏は、永正三(1506)年に、宗祇(1421~1502)から伝授された『古今和歌集』『源氏物語』の秘伝を晩年移住した堺で宗訊に伝えている。さらに、相伝された切紙などは宗訊から宗周に伝えられたという。書写者と伝えられる兩名の父宗訊は、



題箋「桐壺」

古今伝授のうち肖柏からの堺伝授の祖であり、堺流の書にも秀でていたという。女子大蔵となった『源氏物語』は、堺伝授の人脈の中で書写されたものであろうか。すると、室町末、桃山時代に『源氏物語』がどのように読まれたのかを示す重要な資料となる。五十四帖が揃っていることも貴重である。極書では宗周・理成の二人の筆とするが、本書は実際には複数の手による寄合書（よりあいがき）である。しかし、書写年の隔たりはなくすべて同時代のもので、流麗な書風を全帖に渡って見ることができる。当時の古典研究の実態解明にも寄与する意義があろう。



「桐壺」一丁

平安時代の宮廷貴族は金箔や切箔、金銀の砂子をちりばめた『源氏物語』を、調度手本として鑑賞したが、女子大蔵本は、鑑賞用の写本ではない。春慶塗の抽斗付き箱に収められてはいるが、堅26.6センチ、横20.6センチの袋綴本、紺無地の表紙、同左上に、巻名を題箋に記し、金などは使われていない。本文は楮紙で、各巻一丁の遊紙がある。「きりつほ」が一丁裏表とも十行、二丁以降は半葉十一行、「みのり」のみ全冊半葉十行のほかは、他巻はすべて半葉十一行。和歌は二字下げで二行に書写されるが、下の句はそのまま本文に含まれる形に書写されている。

本文には他本との校合を行った書き入れや、巻によっては貼り紙が随所にみられ、わずかではあるが本文に音読する際の注記とみられる捨て仮名や発音注記がみられるほか、多くの付箋も見られる。これらは、室町期の『源氏物語』注釈書の本文（『長珊聞書』など）にも見られるもので、『源氏物語』がどのように伝えられていくのかを解明する手掛かりになる。

2013年度は、早速、日本文学専攻大学院の日本語学演習で「桐壺」を調査した。女子大蔵本の「桐壺」は宗周筆と鑑定されているが、仮名字体の総数は143種、平均字体3字である。伝本系統にある三条西家本源氏物語106種に比べ、かなり種類が多いことがわかる。ここには変体仮名を利用して語頭標示、語末標示が行われ、形態素を越えた踊り字の使用を避けるなど、単語意識が強い本文書写の態度もうかがえる。また、使用漢字も三条西家本よりも多いことが判明した。堺流の書は美しさを追求しつつ、文章の理解しやすさを目指したものである。

書写された資料を目の当たりに研究が行えることは、古典文学、日本語研究を行う上で、この上もなくありがたいことだが、この女子大学に相応しい『源氏物語』が収蔵されたことは、すべての学生にとって誇らしいことである。

（日本文学科教授）

大学図書館 Web 版利用者アンケート結果報告 (概要)

日本女子大学図書館では、利用者の図書館への要望や意識を把握し、今後のサービスの向上や将来のあるべき図書館像に対する基礎データを得るため、2013年10月22日(火)～11月28日(木)に Web 版利用者アンケート「LibQUAL+®」(ライブカル)を実施しました。その結果概要を報告します。回答へのご協力をありがとうございました。

1. 調査概要

1. 1 対象者：学部生・大学院生（通学課程，通信教育課程），大学教員（専任），職員（専任）

1. 2 実施方法

- ・北米研究図書館協会（Association of Research Libraries）が提供する，利用者が図書館サービスの評価を行う Web 調査パッケージ「LibQUAL+®」を利用。対象者には大学の連絡システムを使用して，回答先 URL をメールで通知（学部生（通信）には大学の連絡サイトへ回答先 URL を掲載して通知）。
- ・参加賞：回答者（通学課程学生）のうち参加賞受け取り手続き者にクリアファイルを進呈。

設問の種類 *調査票は図書館 HP に掲載

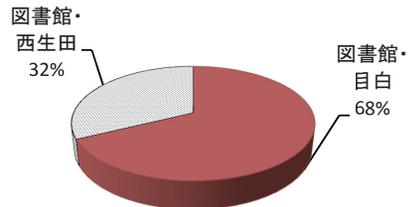
| | |
|---------|------------------|
| 1)~22) | コア設問 (22問) |
| 23)~30) | 付加設問 (8問) |
| 31)~33) | 図書館利用に関する設問 (3問) |
| 34)~38) | 統計質問 (5問) |
| 39) | 自由記述 |

2. 結果概要

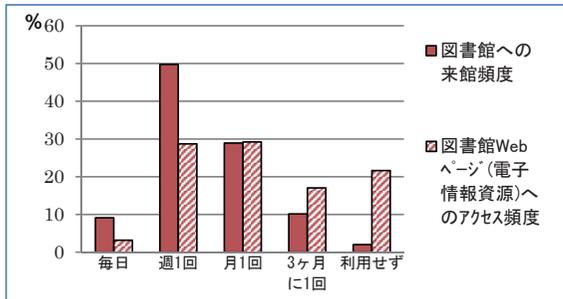
2. 1 回答数・回答率

| | 有効回答数 | 回答率 |
|-------------|-------|-------|
| 学部生（通学） | 459 | 7.4% |
| 学部生（通信） | 3 | 0.15% |
| 大学院生（通学・通信） | 54 | 18.0% |
| 大学専任教員 | 49 | 19.1% |
| 専任職員 | 34 | 19.8% |
| 計 | 599 | 6.7% |

2. 2 よく使う図書館



2. 3 利用頻度



<全体> 表1

| | 希望 | 最低限 | 実際 |
|-----------|------|------|-------|
| サービス：AS | 7.06 | 5.79 | 6.25 |
| 情報（蔵書）：IC | 7.39 | 5.95 | *5.93 |
| 場所：LP | 7.50 | 6.04 | 6.35 |
| 全体 | 7.29 | 5.91 | 6.15 |

<学部生> 表2

| | 希望 | 最低限 | 実際 |
|-----------|------|------|------|
| サービス：AS | 7.03 | 5.82 | 6.28 |
| 情報（蔵書）：IC | 7.31 | 5.94 | 6.04 |
| 場所：LP | 7.49 | 6.14 | 6.53 |
| 全体 | 7.24 | 5.94 | 6.25 |

<大学院生> 表3

| | 希望 | 最低限 | 実際 |
|-----------|------|------|-------|
| サービス：AS | 7.17 | 5.69 | 6.35 |
| 情報（蔵書）：IC | 7.92 | 6.10 | *5.62 |
| 場所：LP | 7.81 | 6.00 | 6.09 |
| 全体 | 7.61 | 5.92 | 6.03 |

2. 4 コア設問への回答結果

「LibQUAL+®」のコア設問は、三つの側面（サービスの姿勢（Affect of Services：AS）9問，情報のコントロール（Information Control：IC）8問，場としての図書館（Library as Place：LP）5問）で構成され，各設問に「許容できる最低限」，「希望」，「実際」という3種類の観点から1～9の点数による回答を得た。集計結果は表1～5のとおり（*は実際が最低限より低い数値）。全体(表1)では，実際(6.15)が最低限(5.91)を上回っているが，希望(7.29)との差は大きく，側面別ではIC(情報・蔵書)面で実際(5.93)が最低限(5.95)を下回っている。

<教員> 表4

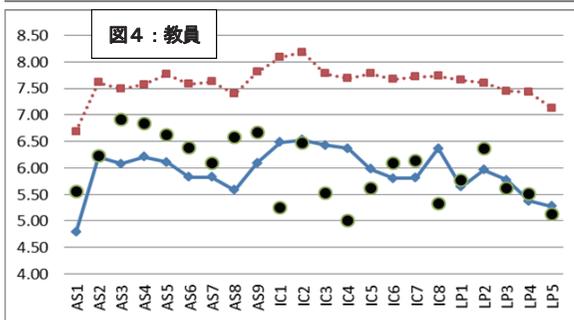
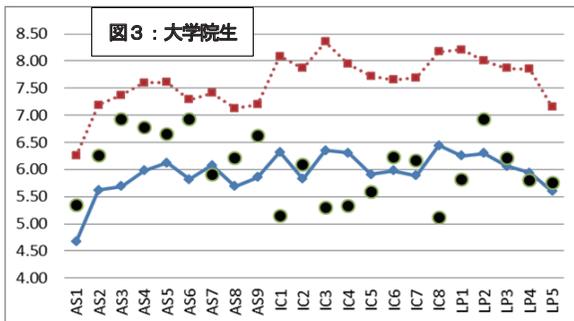
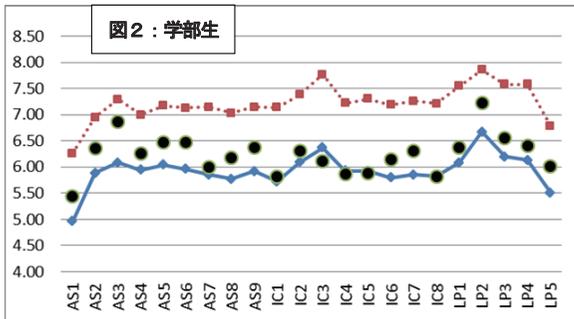
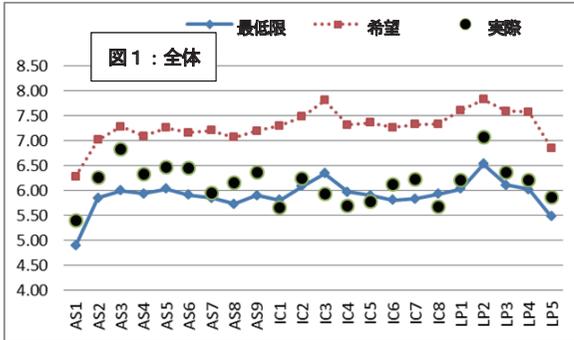
| | 希望 | 最低限 | 実際 |
|-----------|------|------|-------|
| サービス：AS | 7.51 | 5.87 | 6.44 |
| 情報（蔵書）：IC | 7.81 | 6.24 | *5.68 |
| 場所：LP | 7.44 | 5.59 | 5.69 |
| 全体 | 7.61 | 5.96 | 5.99 |

<職員（図書館スタッフ以外）> 表5

| | 希望 | 最低限 | 実際 |
|-----------|------|------|-------|
| サービス：AS | 6.65 | 5.21 | *5.19 |
| 情報（蔵書）：IC | 6.79 | 5.31 | *5.00 |
| 場所：LP | 7.02 | 5.24 | *4.84 |
| 全体 | 6.81 | 5.25 | *5.03 |

学部生（表2）は全体的に実際が最低限を上回り、大学院生（表3）・教員（表4）はIC（情報・蔵書）面で実際が最低限を下回り、職員（図書館スタッフ以外）（表5）は全体的に実際が最低限を下回っている。学生・教員の要望の傾向は、学部生「場所>情報>サービス」、大学院生「情報>場所>サービス」、教員「情報>サービス>場所」であることが読み取れる。

続いて各設問への回答数値（グラフ）を概観する。



全体（図1）希望が高いのは、IC3「本や雑誌（紙）」（7.80）、LP2「ひとりの静かな空間」（7.82）であり、最低限の値も高い。実際が最低限を下回った項目は、いずれもIC（情報・蔵書）関係で、紙・電子資料や情報機器等の充足度、館外からの電子資源へのアクセスへの評価が低い。

学部生（図2）希望が高いのは、IC3「本や雑誌（紙）」（7.77）、LP2「ひとりの静かな空間」（7.86）である。蔵書と場所への要望が同程度ある。IC3は実際が最低限を下回っている。LP3「快適で行きたくする場所」の最低限が大学院生、教員に比して高い（6.20）。

大学院生（図3）希望が最も高いのは、IC3「本や雑誌（紙）」（8.35）であり、8点以上の項目はIC8「雑誌（紙・電子）」、IC1「館外からの電子資源へのアクセス」、LP1「研究意欲をかきたてられる場所」、LP2「ひとりの静かな空間」である。このうちLP2以外は実際が最低限を下回り、IC5「情報に容易にアクセスできる最新の機器等」を含めIC（情報・蔵書）関係の評価が低い。

教員（図4）希望が8点以上の項目は、IC2「図書館のウェブサイトは利用者が自力で情報を見つけられる」（8.18）、IC1「館外からの電子資源へのアクセス」（8.08）である。IC4「私が必要とする電子資源」をはじめ、紙・電子資料や情報機器等、IC（情報・蔵書）関係で実際が最低限を下回っている。学生と比してLP（場所）への最低限の値が低い。

2. 5 今後に向けて

調査終了後、「LibQUAL+®」より Results Notebook、自由記述を含む Raw Data 等が提供された。本稿では Notebook

より概要を報告したが、1月21日現在、Raw Dataをもとに利用館別や自由記述などの分析作業中である。さらなる分析結果を今後報告するとともに、結果に基づく改善への取り組みについても順次お知らせしてまいりたい。（図書館事務部長・情報サービス課長兼務 中曾根緑）

たぐさんの人生

松土 あゆみ

あなたは、織田信長に会いたいと思ったことはありませんか？あるいは、日本からずっと遠い国の人々の生活を知りたいと思ったことは？今や国際化の時代と言われているので、時間とお金に余裕があれば後者の願いは案外すんなり叶えられるかもしれませんね。けれど、実際に安土桃山時代に行くことは不可能だし、逆に未来に行くことも現代ではまだ出来そうもありません。

でもひとつだけ、私たちが他の時代に行くことを可能にするものがあります。もう察しはついているでしょう？そうです、「本」です。本があれば、私たちは自由にいろいろなところへ飛んで行けます。いいえ、それだけではありません。本の中では、私たちは男にだって女にだってなれるし、人間だけでなく動物にも植物にも昆虫にだって、何にだってなれてしまいます。

本の中には、たぐさんの魅力的な人生が色とりどりに詰め込まれています。そして、そんな本がいっぱいいっぱい、いっぱい詰まっているのが図書館です。大学図書館には、文学も歴史も服飾も、もちろん他の分野の本も、本当にたぐさんの本が棚に並べられています。その一冊一冊の本に、まだ名前も知らない人の人生が詰まっています。せっかくこの大学に来たのに、そんな本たちとの出会いをあなたは逃すつもりですか？それは、これから大学でできる友人との出会いを逃すのと同じくらい、もったいないことですよ。きっと、この大学でしか出会えない本があるはずですよ。そんな本と知り合いになってみてください。そして、筆者や物語の人物の人生と一緒に感じてみてください。自分以外の目線から世界を見てみるというのは、普段は気にもかけなかったものが特別に見えたり、逆によく知っていると思っていたものの新たな一面を見つけることができます。そんな体験をするのは、とても刺激的で楽しいものです。

ぜひ、図書館と共に楽しいキャンパスライフを送ってください。

(史学科・2年次学生)



「本」と「私」

根本 友里恵

皆様が考える「本」の存在意義とは何でしょうか。もし「本」の存在意義について述べるのならば、今の私は「自分を主体にして物事を考えるための手がかりである」と述べるでしょう。それは本を能動的に読むにしても、受動的に読むにしても同じことです。確かに「本」は他者の考えることが述べられたものです。しかし、私たちはそれを自分の言葉で解釈し、理解し、そして考えます。私はこのことが「自分を主体にして物事を考える」ということなのではないかと思っています。このように考えさせてくれたのは日本女子大学での学び、そして大学図書館との出会いがあったからです。

授業の中で専門的な知識を学び、その後、大学図書館でそれらに関連する本をゆっくり歩きながら探していると、心惹かれる本の題名に気をとられてしまい、結局、本来探していた本に加え、別の本も借りて読んでしまう…そのようなサイクルを繰り返しているうちに、いつの間にか私の世界は広がり、今までとは違った視点で物事を考えられるようになりました。様々な本から得た知識は、私の新たな一面を導き出しました。

人それぞれ「本」に対する考え方は異なります。しかし、もしよろしければこの機会に、私のように様々な種類の本を手にとって頂けると嬉しいです。大学図書館には教養分野から各学科専門分野まで扱う本が数多くあります。目白・西生田キャンパス間での相互利用が可能で、また他大学図書館との交流があるため、私たちはより多くの本と触れ合うことができます。

もしかしたら今まで知らなかった「私」を発見できるかもしれません。この大学生活で新たな自分の引き出しを開けてみませんか？

(文化学科・2年次学生)



大学図書館を使いこなそう!



日本女子大学図書館は、本学における学生の学習や本学が行う高等教育及び学術研究活動全般を支える、重要な学術情報基盤の役割を有した機関です。ここでは、本学図書館を使いこなすコツをご案内します。資料もスタッフも活用し、有意義な時間を過ごしていただきたいと思います。

✔ 利用カードの交付

学生証・教職員証を持参の上、カウンターにお越しください。図書館は目白、西生田とも利用できます。利用カードは共通で、登録した本人のみ有効です。図書館への入館、図書の貸出などには、利用カードが必要です。

✔ 資料の探し方



1. 直接書架へ行く

この図書館は開架式です。図書・雑誌を書架上で直接手に取り見ることができます。

資料は、和書、洋書、雑誌、年鑑・白書類、参考図書、大型本など、その性質や形態によってまとめて置かれています。また、同じ主題（テーマ）が集まるよう、和書は日本十進分類法（NDC）、洋書はデューイ十進分類法（DDC）により分類され、書架上に並んでいます。

2. OPAC (Online Public Access Catalog) で検索する

書名または著者名、あるいはキーワードがわかっている時は、OPACで本学の蔵書を検索し、請求記号と配置場所を調べることができます。OPACは日本女子大学図書館ホームページからご利用ください。インターネット環境があれば、どこからでもアクセスできます。

日本女子大学図書館 HP Web サイト
<http://www.lib.jwu.ac.jp/>
 日本女子大学図書館 HP 携帯サイト
<http://www.lib.jwu.ac.jp/mobileopac/>

3. 参考係に相談する

参考係は、皆さんが必要とする文献や情報を探し出すサポートをしています。必要な資料が見つからない時はご相談ください。

🟢 図書を借りる

図書と利用カードをカウンターへお持ちください。貸出は必ず本人が手続きしてください。

☆☆☆ **学部学生の貸出冊数上限が8冊に増えます(2014年4月開始)** ☆☆☆

学部学生の貸出冊数を2014年度から8冊に増やします。併せて、貸出期間を21日間に変更します。貸出期間については2013年度までの規則では1カ月と長く、予約せずに諦めるケースが見られました。2014年度から貸出冊数が増えるとともに貸出期間は多少短縮されますが、貸出中予約図書については、より早く入手できるようになります。蔵書を多くの学生で共有し活用していただくため、新たな規則へのご理解をお願いします。

🟢 My JWULIS (図書館ホームページ上のプライベートルーム) を使う

My JWULIS (Japan Women's University Library Information System) は図書館が提供するオンライン・サービスです。OPACの検索結果から予約(貸出中図書予約、目白・西生田図書館所蔵図書取り寄せ)ができるほか、My JWULISのメニューを選んでログインし、利用状況の確認、貸出更新、予約の変更、検索式・検索結果の保存をインターネット上で行うことができます。

🟢 図書館の施設を使う

図書館には、新聞や情報誌があるブラウジングコーナー、DVD・ビデオ・CD等を楽しめるコーナー、図書館資料を使ってグループで学習・研究するグループ研究室、メディアセンター常設PCや貸出PC用情報コンセントなど、様々な学習スペースがあります。積極的に活用しましょう。

🟢 図書館のイベントに参加する

☆☆☆ 2014年度に関しては、図書館ホームページやJASMINE-Navi、館内掲示にてお知らせします ☆☆☆

1. 図書館開催の講習会に参加する

図書館では、図書館利用のエッセンスをぎゅっと濃縮して詰め込んだ、資料の探し方やデータベースに関する講習会を開催しています。ふるってご参加ください。



2. 「学生が読みたい本」に応募する

図書館では、年2回(前後期各1回)「学生が読みたい本」を募集し、研究目的に限らず、大学図書館にあった方が良くと思う本、読みたい本のリクエストを受け付けています。2013年度は前期5月8日(水)~15日(水)、後期11月1日(金)~8日(金)に募集を行いました。購入された図書は背に「学生が読みたい本」のシールを貼り、入口フロアにある専用の書架に別置されています。

なお、研究のために必要な図書の購入に関しては、随時、参考係にて受け付けています。

🟢 協定を利用する

図書館相互利用協定とf-Campus(5大学単位互換制度)を併せ、下記の表にてご紹介します。

| | 図書館相互利用協定 | | | f-Campus (5大学単位互換制度) |
|------------|------------------|-------------------|-----------------|-----------------------------|
| 協定校 | 学習院大学図書館 | お茶の水女子大学 附属図書館 | 跡見学園女子大学 図書館 | 学習院大学、学習院女子大学 立教大学、早稲田大学 |
| 対象者 | 本学発行の学生証・教職員証所持者 | | | f-Campus 受講証を 所持する学生 |
| サービス 内容 | 館内閲覧、複写 図書の貸出 | 館内閲覧、複写 | 館内閲覧、複写 | 館内閲覧、複写 |

* 詳細は、図書館ホームページ「協定校利用案内」(<http://www.lib.jwu.ac.jp/lib/KG.html>) 参照。

(閲覧係)

編集後記 昨年5月、泉会総会当日の『源氏物語』展示では、来場の方々から新取の喜びとともに授業等での利用への期待の声が寄せられた。今号では坂本先生による紹介を掲載している。7年ぶりの図書館アンケートはWeb利用という新たな方法を採用、館外の多くの協力を得て実施することができた。結果を今後活かすことが肝要である。別れと出会いの季節。図書館はご卒業後も利用可能。新入生の皆さんは、まずは気軽に図書館に立ち寄っていただき、松土さんや根本さんのように、大学生活の充実に活用されることを願っている。
(中曽根)